I am Jazz!（ジャズ・スーパー列伝）

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 44
Hank Mobley【ハンク・モブレー】
～“テナー・サックスのミドル級チャンピオン”と称された名手～

Photo from "Newark 1953" ／ Hank Mobley (Uptown Records)

Profile

1930 年 7 月 7 日、米国ジョージア州イーストマンで生まれ、ニュージャージー州のエリザベスで育つ。本名は Henry Mobley。16 歳の時に叔父にサックスを買ってもらい、独学で学び始める。19 歳の頃から地元の R&B バンド等で演奏活動を始め、ディジー・ガレスピーやマックス・ローチ等と共演の機会を得る。53 年までマックス・ローチのグループで働き、その後、アート・ブレイキーやホレス・シルヴァー、ダグ・ワトキンス、ケニー・ドーハム等とハード・バップのセッションに参加し、54 年にジャズ・メッセンジャーズの設立メンバーとなり、アルバム『ホレス・シルヴァー・アンド・ジャズ・メッセンジャーズ』として発表される。56 年にジャズ・メッセンジャーズが分裂後もホレスと活動を続けたが、数年後にアート・ブレイキーと再び共演するようになる。61 年にはジョン・コルトレーンの代役探しをしていた時期のマイルス・デイヴィスのグループに加入し、アルバム『サムデイ・マイ・プリンス・ウィル・カム』等に参加。60 年代以降は主にバンドリーダーとして活動し、途中、ドラッグやアルコールで活動の中断を余儀なくされることもあったが、50 年代後期から 70 年にかけてブルーノートから 20 枚以上のアルバムを発表するなど、ブルーノートの看板アーティストの 1 人として活躍。70 年から 72 年までシダー・ウォルトンとクインテットを結成して活動。70 年代半ばに肺の病のため演奏活動から引退を余儀なくされるが、80 年にテテ・モントリューのレコーディングに 1 曲のみでゲスト参加。86 年 1 月にデューク・ジョーダンのコンサートにゲスト出演したのが最期の演奏となった。1986 年 5 月 30 日、肺炎によりペンシルベニア州フィラデルフィアにて死去。享年 55 歳。

HM's Great Album

1955 年にブルーノートに初リーダー・アルバムを録音以降、リーダー＆サイドマンとしてブルーノートの数多くの名作に参加。サイドマンで参加したアルバムも聴いて欲しい。

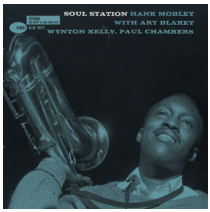
ブルーノート初リーダー・アルバム

ハンク・モブレー・カルテット
ハンク・モブレー・カルテット
（ユニバーサルミュージック：TOCJ-8629）

ハンク・モブレー (ts)、ホレス・シルヴァー (p)、ダグ・ワトキンス (b)、アート・ブレイキー (ds)

1. ハンクス・プランク 2. マイ・シン 3. アヴィーラ・アンド・テキーラ 4. ウォーキン・ザ・フェンス 5. ラヴ・フォー・セール（他、全 6 曲）

ハンク・モブレーの記念すべき



ソウル・ステーション
ハンク・モブレー
（ユニバーサルミュージック：UCCU-99103）

ハンク・モブレー (ts)、ウィントン・ケリー (p)、ポール・チェンバース (b)、アート・ブレイキー (ds)

1. リメンバー 2. ジス・アイ・ディグ・オブ・ユー 3. ディグ・ディス 4. スプリット・フィーリンズ 5. ソウル・ステーション（他、全 6 曲）

ハンク・モブレーの魅力が詰まった代表作の一枚。名盤＆必聴です

ディッピン
ハンク・モブレー
（ユニバーサルミュージック：UCCU-99080）

ハンク・モブレー (ts)、リー・モーガン (tp)、ハロルド・メイバーン Jr. (p)、ラリー・リドレイ (b)、ビリー・ヒギンズ (ds)

1. ザ・ディップ 2. リカード・ボサ・ノヴァ 3. ザ・ブレイク・スルー 4. ザ・ヴァンプ 5. アイ・シー・ユア・フェイス・ビフォー・ミー（他、全 6 曲）

リー・モーガンも参加したハンク・モブレーの人気アルバム

ジャズ・メッセンジャーズの黄金のリズム・セクション 3 人が参加したハンクのワンホーン作品で、ブルーノートに吹き込んだ記念すべき初リーダー・アルバム。「ハンクス・プランク」「アヴィーラ・アンド・テキーラ」「ラヴ・フォー・セール」等、若きハンクのエナジーが迸るナンバーに、バラード「マイ・シン」のプレイもいい。強力なリズム陣の好演にも注目。この作品からハンクのブルーノートでの快進撃が始まる。1955 年録音。

オープニングを飾るスタンダード「リメンバー」のプレイは、インストものでは最高の名演のひとつ。続くオリジナル「ジス・アイ・ディグ・オブ・ユー」も文句なしの名演。ファンキーなオリジナル「ソウル・ステーション」に、哀愁たっぷりの「イフ・アイ・シュッド・ルーズ・ユー」も秀逸。ウィントン・ケリーとポール・チェンバースの名コンビのプレイも最高。ハンクを知る上で、けして忘れることはできない名盤。1960 年録音。

名演「リカード・ボサ・ノヴァ」収録でも人気のアルバム。リー・モーガンの素晴らしいソロが聴けるジャズ・ロック・ナンバー「ザ・ディップ」から、アルバムの最後を飾る「ボーリン」まで全曲に渡って“モブレー節”が光り輝く。リー・モーガンとの相性も抜群で、ハンクの名ハードバッパー振りが遺憾なく発揮された代表作の 1 枚。ピアノのハロルド・メイバーン Jr. とドラムのビリー・ヒギンズのいぶし銀のプレイも聴き所。1965 年録音。

“ミドル級チャンピオン”

ハードバッパー筋にジャズ・シーンを邁進。ブルージーで哀愁漂う音色、作曲家としても優れた才能を発揮し、数々の名曲を残した名テナーマンのハンク・モブレー。そのハンクを“テナー・サックスのミドル級チャンピオン”と評したのはイギリス人のジャズ評論家レナード・フェザーだった。ジョン・コルトレーンほど強烈ではないが、スタン・ゲッツほど円やかでもない音色という意味合いだったようだが、ボクシングの世界ではミドル級は伝統的にスーパースターが多く、レベルが最も高い階級と言われることがある。だから、ハンクは凄いのだ。

ハンクのラスト・レコーディング

1970 年代半ばに肺の病のため演奏活動から引退を余儀なくされたハンク。1980 年にスペイン・カタロニア生まれの盲目のピアニスト、テテ・モントリューがジョージ・ムラーツ（b）とアル・フォスター（ds）とのトリオでニューヨークで録音したアルバムがある。タイトルは『I Wanna Talk About You』で、ハンクはこのアルバムに 1 曲だけゲスト参加している。ハンクが吹き込んだナンバーは「Autumn Leaves（枯葉）」で、7 曲入りのアルバムのラストに収録されている。この 1980 年 3 月 22 日の録音がハンクのラスト・レコーディングとなった。

Jazz Standards（ジャズ名曲列伝） Vol.17

~ On The Sunny Side Of The Street【明るい表通りで】~

この曲は作曲ジミー・マクヒュー、作詞ドロシー・フィールズにより 1930 年に誕生した曲で、ハリー・リッチマンとガートルード・ローレンス主演したブロードウェイ・ミュージカル『リュー・レスリーのインターナショナル・レビュー』で最初に紹介された。同年テッド・ルイス楽団のレコードが大ヒットを記録。その後、スタンダードとなり、エラ・フィッツジェラルド、ナット・キング・コール等をはじめ、現在まで数多くのアーティスト達に愛され続けている。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

ビリー・ホリデイ『奇妙な果実』
レスター・ヤング『プレジデント・プレイズ・ウィズ・ジ・オスカー・ピーターソン・トリオ』
リロイ・ヴィネガー『リロイ・ウォークス！』
エラ・フィッツジェラルド＆カウント・ベイシー『エラ＆ベイシー』
ジョシュア・レッドマン『ジョシュア・レッドマン』